

「家がいいね」 第266号

いせ在宅クリニック 広報月刊紙

2026. 8. 1



一面のひまわり畑。古い映画「ひまわり」が浮かぶ。ソ連戦線に夫を送り出されて生死も分からない。イタリアから来た妻が探し回る。1970年にウクライナで撮影された今、かの地の花はどのように咲いているのか。そして人は何を探して生きているのか。

死んだほうがましと言われますが。

外来でも在宅でも「死んだほうが・」と呟く人がいると、どういう言葉を返すか、迷います。誰しも現実を生きているのですから、その辛さを分かってほしい気持ちから言われるのでしょうか。その人のリアルな感情は、他に例えられないものと思います。「死んで花実が咲くものか」と理屈や同情で説得はできません。その人の言葉が次ににどのようにつながれるか、待つことになります。美輪明宏さんが、91歳で逝きました。77歳



で紅白で唄ったヨイトマケの歌を私は忘れられません。長崎で被爆した彼は戦争を忌避します。老母が息子に「生きて帰れ」と出征の駅で別れ際に言い、憲兵から

殴られた場面を、幼い心で忘れませんでした。

国のため喜んで死んで来いと唱和された時代です。彼が背を伸ばし俯くことなく凜として生きた姿は10代の写真からでも明らかです。



「役に立たない者は、生きている価値がない」

と言わんばかりの考えは、今また広がっています。10年前に「やまゆり園」で障害者差別での殺人事件が起きてから、いまだに変わらぬ日本があります。NPO抱樸の奥田友志牧師が言う。助けてといえる社会を作るべき。相手を「者」とくくり自分と違つと区別することは、差別だと。人権よりも国権を優先の内閣など、頭から腐っています。

ライフライン

そしてまた10年で、熊本での地震が起きた。メディアが追いかけてやすい現場や避難所の情報以外の場面（在宅）を、具体的に考えてみたい。在宅では通院困難になる人たちが多く居る。高齢者「者」、身体障害「者」、難病患「者」、がん患「者」、精神障害「者」、知的障害「者」の日常は、支援を組み込み込み生活を維持している。頼るべき人のライフラインがある。訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護、訪問入浴に加え、ケアプランは介護支援専門員にゆだねる。宅配も毎日の食事や生活用品確保に欠かせない。しかし、ケアする人も震災にあい、電気水道ガスが止まった状態では、在宅から動けない人たちが最もピンチではないか。助けてと声もあげられず、どうしているのか。祈ると共に、伊勢の現状も、この先どんな支えが必要か確かめ合う機会が欲しい。

1年は早いものだなあ

7月6日に二人、24日に、もう一人の、お誕生日。少しずつ落ち着いて、歩き始めました。ヤレヤレです。AIで、ありがたいお姿も

休診のお願い

8月26日、9月30日（水）毎月最終水曜日は研修で休診。

お盆は、8月13日～16日

休診期間になります。

休日や時間外も、在宅患者さんには対応しています。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0079
三重県伊勢市大世古 2-6-12
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可